

毎年恒例！舞鶴市テニス大会に出場しました！！

2016年6月26日（日）



テニスが好きだ。

試合で負けて落ち込んだり、思うようなプレーができず、時々嫌いになることもある。

でも、嫌いになるのは好きだからこそだ！今こそはっきりと言わせていただこう。

筆者はテニスが好き（なはず）だ！【筆者：写真左下】

京都府舞鶴市では毎年、舞鶴市テニス協会が主催する大会（ダブルス団体戦）が開催されている。地元テニスサークルとの深い縁あって、ありがたいことに近畿地方整備局テニス部員もこの大会に毎年出場させて頂いている。今年で出場何回目か。記憶力の乏しい筆者はそんなことは覚えていないが、舞鶴港湾事務所には、過去この大会で勝ち取った数々のトロフィーが鈍い輝きを放ちながら安置されていることは忘れようもない。

大会では毎年数々のドラマが繰り広げられる。今年もコートの中と外で、さまざまな喜劇・悲劇が生まれた。



年齢の差や上司部下といった、普段の職場関係を飛び越えて束の間、ダブルスのパートナーとして、ともに懸命に遊ぶ。普段言えない事も、この真剣な遊びを介すると伝わることだってある。ペアで作戦を練ったりしていると「なるほど、この人はこういうものの捉え方をするのだな」と、ハッとする。



まさかの「あの人」から生み出される華麗なるショットの数々。  
「え、あの人あんなに動けたん！」  
その意外性を見せつけられ、普段とは確実に違う種類の尊敬が生まれ、なんだか嬉しくなったりするのは不思議だ。職場ではあんな怖い顔をして仕事をしている（時もある）のに、趣味のことにになると、こんなに楽しそうに笑うのだな！と。



職場では話したことがなかったけど、普通の男と思っていたけど、Love 人違い oh そうじゃないよ的発見の数々。いつも物静かな彼らが見せる激しい闘争心に驚く。



普段仕事に厳しく一生懸命な先輩達の、楽しむことにも真剣な姿は、また違う格好良さ。  
「楽しい週末があるからこそ仕事も頑張れるんや」  
ヘトヘトの帰りの車でこう漏らした先輩の言葉が印象的だった。  
敢えて言おう！自分もそうであると！（いや、きっと誰もがそうでしょう）

また、今回、この職場でのテニスが縁で知り合ったという、羨ましくもほほえましくもやはり羨ましい出会いを経て、その子と10月結婚します！という嬉しい報告がメンバーからあった（上の集合写真で天使の如き微笑みを浮かべる若者である！）。この真剣な遊びの場からはじまる確かな縁。ここではじまる縁のかたちはひとそれぞれで、広がり方もさまざまだ。そしてその縁がその人の人生を変えてしまうこともある。

最後にもう2枚。



翼の折れたエンジェル（膝の痛みこらえるエンジェル）



と、膝の痛みこらえるエンジェルを優しく見守る部員達。皆さんのこの表情からも現場の一体感が伝わるはず……！心配しつつも各々が心の底から楽しんでいる。このような機会を与えて下さる地元舞鶴チームの方々、本当にありがとうございます！

なお、今回の大会の結果は、

Aチームは2部リーグの準優勝

Bチームは3部リーグの3位

という結果でした。舞鶴テニスリーグはなかなか分厚いですが、来年こそ各リーグで優勝し、一つ上のリーグを目指して頑張ります！